

科目名	日本語教育の実践Ⅱ（サイレントウェイ）1～2
授業の目標・ねらい	教授法として名前は知られているけれども、実際のレッスンに触れる機会が少ないと思われるサイレントウェイという言語習得法について紹介します。また、この教授法を開発したカレブ・ガターニョの教育観や人間観について触れ「自立した学習者を育てる」ことについて考察します。
授業内容・授業方法	サイレントウェイの根本にある考え方を知り、それが授業でどのように生かされるか、実際に自分自身が言語を学ぶ体験を通して考えて行きます。また、サイレントウェイの教具を使うことで生徒がどのような体験ができるのか、また、それに関連してカレブ・ガターニョ氏の提唱した「The Subordination of Teaching to Learning(学びに従う教え)」について考察します。
予習・復習	予習：自分自身が赤ちゃんの時から現在に至るまで、どのように母語を習得してきたのかを振り返ってください。記憶にないところは想像してみましょう。授業の中でともに考えます。 復習：プリントを読んで下さい。
使用テキスト	プリントを配付します。
参考書等	カレブ・ガターニョ(土屋澄男訳)『こどもの「学びパワー」を掘り起こせ』(茅ヶ崎出版) 同上『赤ん坊の宇宙』(リーベル出版)
講師	アヘゴ希佳子
所属	宝塚大学東京メディア芸術学部
研究分野	ケースメソッド、待遇表現、介護の日本語、西アフリカの日本語教育
講師紹介	2024 年から、サイレントウェイでフランス語を習い始め、その学習体験をきっかけに、サイレントウェイで教えることに興味を持ちました。現在は、本務校にて、日本語、韓国語、英語の授業にサイレントウェイを取り入れています。2025 年度には、日本語教師を対象に、サイレントウェイセミナーを企画・開催しました。